

# 巻頭言

日本 ALS 協会北海道支部長  
深瀬 和文

新緑の濃い時期がやってきました。

自分のことですが身体が夏向きなので、体調が良い時期が参りました。

さて、5月30日に東京の本部の総会に参加させてもらいましたが、内容は後のページで東さんが詳しく説明しますので省かせていただきます。

東京に行った理由を言いますと、人工呼吸器を着けて飛行機に乗ることができるということと、本部の総会に参加できるということを実証することが目的でした。東京に着いてからはホテルで、ミキサーを持っていき好きな食べ物を胃瘻から入れていました。実際には食べていないですが、目で味わい、お腹で満腹感を味わいました。

無事総会も終わって、テレビで見たおでん屋を目指して北区赤羽まで行きました。おでん屋はすごい行列でしたが、何とか食べることができ満足しました。しかしホテルに戻るため赤羽駅に向かう途中に自分は全く気が付きませんでした。震度4の地震にあい、駅に着いたらJRが全線止まっており、1時間待っても動く気配が無いので、唯一動いている電車に乗りましたが、かなりの遠回りになり時間がかかりました。

何とか新宿駅に着いてもまだJRが動いていないため、駅の中は人でごった返しになっており、駅員も対応に追われて障害者にまで気が回らなくて改札口では車いすの方が途方に暮れている姿を見かけました。それでも地下鉄は動いていたので12時前にはホテルに着くことができました。

これが大災害だと障害者はどう命を守るのだろうと疑問が湧きました。

一つの例を言えば、さっきも言いましたが、地下鉄は動いているのでJRの人たちは地下鉄に流れて超満員状態のため、駅員には車いすの人は乗れないと言われましたが、地下鉄も混乱しているようで1分

もしないうちに次の電車が来て無事乗ることができて逆に良い体験をさせてもらいました。

札幌市ではこのような災害の時どのような対策を障害者に対して行うのか聞いてみたいと思いましたし、駅の中では身近な人がどれだけわれわれ障害者に対して、気を使ってくれるかが、大切な事なのだと感じました。今回は公共交通機関での話ですが普段は自宅での生活の方がずっと長いので、自分の意見としては、遠くの親戚より、ご近所の助けが大事だと思いました。しつこいようですが、普段の近所付き合いがとても大事だと思います。

